





おまけのうらなひのうらなひ  
なまのうらなひのうらなひ  
はまのうらなひのうらなひ  
いしとくうらなひのうらなひ  
うらなひのうらなひのうらなひ  
うらなひのうらなひのうらなひ

うらなひ

うらなひ

うらなひのうらなひのうらなひ  
うらなひのうらなひのうらなひ  
うらなひのうらなひのうらなひ  
うらなひのうらなひのうらなひ  
うらなひのうらなひのうらなひ  
うらなひのうらなひのうらなひ

うらなひ

うらなひ

うらなひ

うらなひ

うらなひ

うらなひ  
うらなひ  
うらなひ  
うらなひ  
うらなひ  
うらなひ

二月廿日

丹江

一 有人言  
一 見之  
一 有之

此詩意以言其  
中何所  
日以此

何所  
此詩意以言其  
中何所  
日以此

二月廿日

丹江

一 有人言  
一 見之  
一 有之





萬物之靈  
二月九日

44

牙城記

松年公嘗言平狄能飲酒持心後最易物  
 之能身身月亦飲酒亦能林仙公亦表  
 云此乃能也公時公亦通言酒能表公亦  
 以公言以公下則以公下公亦言公亦  
 公亦言公亦

子之

劉

一、此名目如「向」字、如「不」字、如「有」字、如「無」字、

一、為心之中心

書云司此差何如

即此致

高僧自來寺及七光競上新紀上田漢  
之弟也兼少以師創之其弟也其弟也  
上田之曰年終也其弟也其弟也其弟也  
上田之曰年終也其弟也其弟也其弟也

十日

大令曰：此書乃王羲之《蘭亭序》之真跡也。其筆法之精，非他書所能及。且其字之大小，亦隨情而變，此乃其神妙之處。今得此真跡，誠為吾輩之幸也。

江文居  
行

卷之四 詩集 卷之四 詩集

二月廿一日

一 一  
竹見之 所甚痛之 所以 樂之

富貴

[illegible]

一 此乃...  
...  
...

一 此乃...  
...  
...

...  
...  
...

...

...

...

一 此乃...  
...  
...



劉洪以爲奇

三

古

[illegible]

格士不名

一此乃百字碑也

應像  
 中新像  
 禮部  
 少孔行  
 言曰  
 即  
 明  
 此乃  
 清

丁巳

一、新集... (The text is highly stylized and partially obscured by a large ink blot, making it difficult to transcribe accurately. It appears to be a list or a series of notes.)

421

在日

丹

[illegible]

此後...  
...

二月

廿九日

あつた...

御見え

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...





此後石上之山一先之  
其後石上之山一先之  
其後石上之山一先之  
其後石上之山一先之  
其後石上之山一先之

一 此後石上之山一先之

此後石上之山一先之  
其後石上之山一先之  
其後石上之山一先之  
其後石上之山一先之  
其後石上之山一先之

此後石上之山一先之  
其後石上之山一先之  
其後石上之山一先之  
其後石上之山一先之  
其後石上之山一先之

此後石上之山一先之  
其後石上之山一先之  
其後石上之山一先之  
其後石上之山一先之  
其後石上之山一先之



一 仰見江表 作中  
一 明教立於東晉 爲名臣之座

印新錄

一以作同之官之建礼

自是後遂以

自來水

一、作爲國家之象徵

五像

一以作之無以爲之

善為善也

新嘉坡坡同  
左

四行書堂藏

武庫所藏

Dr. J. H. P. Jones

22

一、  
司馬公與余之書

從之好。此乃自來。可。可。可。

病恒為保江

一  
此種新式印書機之功用

出立の事

一 出立の事

一 出立の事

一 出立の事

一 出立の事

一 出立の事

一 出立の事

一 出立の事

一 出立の事

二月

出立

出立の事

出立の事

出立の事

出立の事

出立の事

出立の事

出立の事

出立の事



も改定をうけたりとて言ひ出されしに  
此の書は先づ流布せられしに  
多量なりと云ふ事ありしに  
此の書は先づ流布せられしに  
多量なりと云ふ事ありしに  
此の書は先づ流布せられしに  
多量なりと云ふ事ありしに  
此の書は先づ流布せられしに  
多量なりと云ふ事ありしに

等々入 此の書は先づ流布せられしに  
多量なりと云ふ事ありしに  
此の書は先づ流布せられしに  
多量なりと云ふ事ありしに

此の書は先づ流布せられしに  
多量なりと云ふ事ありしに

一 此の書は先づ流布せられしに  
多量なりと云ふ事ありしに

此の書は先づ流布せられしに  
多量なりと云ふ事ありしに

二月 此の書は先づ流布せられしに  
多量なりと云ふ事ありしに

例人



評任人 百五村 短冊

口乃 口乃 口乃

口乃 口乃 口乃

口乃 口乃 口乃

口乃 口乃 口乃

口乃 口乃 口乃

口乃 口乃 口乃

口乃 口乃 口乃

口乃 口乃 口乃





一 所見之文字  
一 所見之文字  
一 所見之文字  
一 所見之文字

一 所見之文字  
一 所見之文字  
一 所見之文字  
一 所見之文字

一 所見之文字  
一 所見之文字  
一 所見之文字  
一 所見之文字

一 所見之文字  
一 所見之文字  
一 所見之文字  
一 所見之文字

二月廿四

十三日

一 友人來信  
二 昨日之雨...  
三 有事...  
四 大...  
五 吉...  
六 時...  
七 昨...  
八 昨...  
九 昨...  
十 昨...

一 南...

一 山...

川...

...

...

二月

一 雨...

母...

一 所見

一 所見

一 所見

一 所見

一 所見

一 所見

二月

七日

十日

一 所見

一 所見

一 所見

一 所見

一 所見

一 所見

一 所見

一 所見